

六郷特別出張所管内	
人口	男 32,952名
	女 31,230名
	計 64,182名
世帯数	29,882世帯
平成17年5月1日現在	

六郷わがまち

発行 わがまち大田
 六郷地区推進委員会
 編集 「六郷わがまち」編集委員会
 事務局 大田区六郷特別出張所
 〒144-0055
 大田区仲六郷2-42-2
 電話 03(3732)4885(代)

もっと強く！ もっと安全に！

多摩川護岸の衣替え

区民広場のやや上流、古川薬師附近の河川敷がぐんと広くなりました。多摩川の氾濫を防ぐため、河岸と堤防を強化する工事が進んでいます。

【工事の目的】

多摩川が大きく曲がっている西六郷一・二・三丁目地先は、台風や大雨のとき流れが直接ぶつかり、過去に大災害を起こしたことがあるように、多摩川流域の中で特に危険な箇所とされています。

そのため、総合的な護岸工事を行い安全性を高めると共に、震災発生時に防災施設や被災地域などの確実な連絡を図るための緊急用河川敷道路の整備が行われています。

【低水護岸工事】

川岸から約16mのところ、鋼矢板を打ち込み、植生階段ブロックを積み、水中には根固めブロックを乱積みします。植生階段ブロックは、内部にたくさんの隙間があるコンクリートで、土がたまりやすく将来草が生え緑化されます。

【高水護岸工事】

いわゆる堤防で、現在の勾配より緩く1対3として、より丈夫になります。

【緊急用河川敷道路】

表面は草や芝が生えるようになっていますが、路床は堅固になっており、災害時には、車両が通れるようになっていきます。

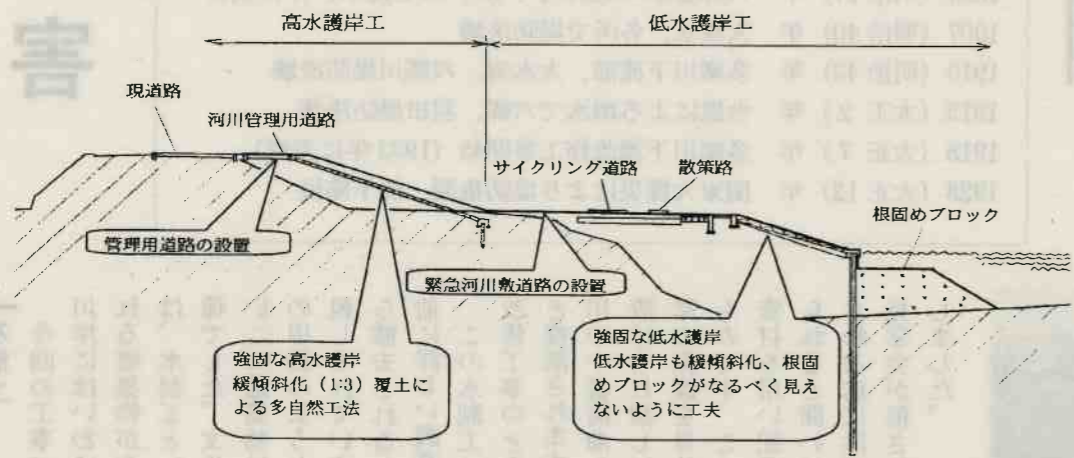
【河川管理用道路】

現在の堤防の上の道路に平行して管理用の通路が設けられます。堤防の管理がしやすくなると共に、堤防の幅が広くなり、安全性が高まります。

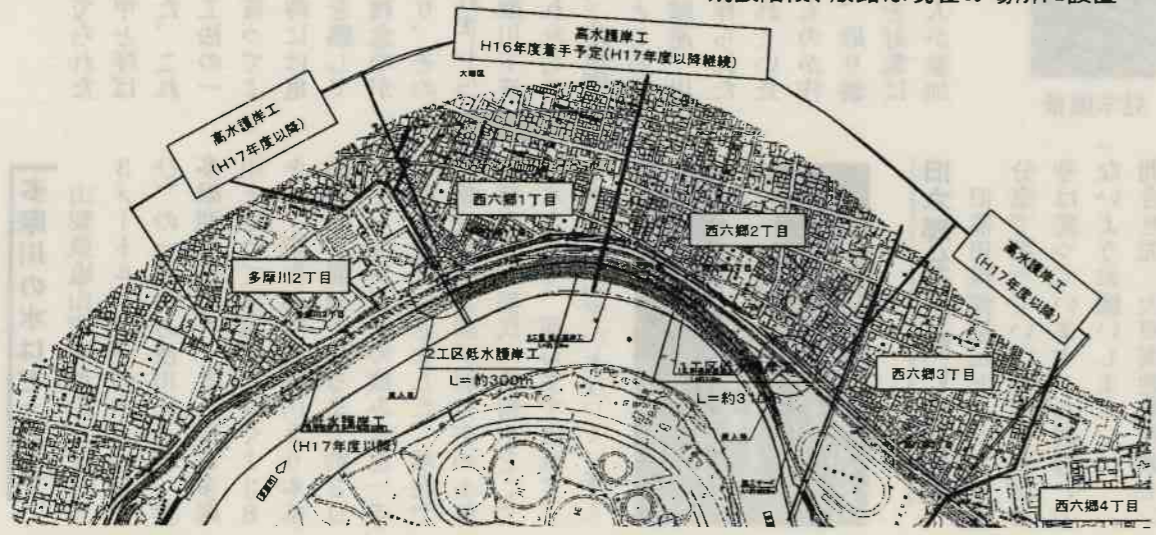
【その他】

サイクリング道路や散策路は、今までどおり設けられ、河原は憩いの場や、散歩の場として、自然に親しめる場ともなります。

工事の内容 横断図



平面図



工事風景

【工事期間】

平成17年5月までに低水護岸の約半分が完成しました。平成17年度中に、残りの低水護岸の工事と高水護岸工事が行われます。工事費は総工費約24億円とことです。

また、川崎側の河岸付近を掘削し、高水護岸の盛土材とすると共に流下能力が確保されます。

過去の 水害

多摩川の源流は、奥多摩の笠取山で標高1953m、全長は138km。日本でも有数の急流のため幾多の災害が記録されています。

なかでも、昭和49年の台風16号による狛江水害では、民家が流されるところ、堰を爆破する様子がTVで放映され、治水・水防の重要さを認識させられました。六郷地域も明治以降に限っても別表のように何回となく洪水に見舞われています。

多摩川下流改修工事

以下のような災害を防ぐため、総合的な計画の下、堤防の高さを倍にするなどの多摩川下流改修工事が、大正7年から始まりました。昭和8年に完成してからは、大きな災害は激減しました。

多摩川の決壊写真

明治四十三年八月十日夜十時多摩川の天王木村の堤防が百二十間に互り決壊する。地元天王木村、高畑村、町屋村、道塚村の農民は、総出で修理にあたる。決壊箇所は今の古川薬師寺裏、西六郷一丁目付近。工事請負人は当時道塚小学校敷地に居住していた中務政五郎さんという人（明治時代より多摩川の砂利を□□□□していた。）

出品□道塚町 五〇
長谷川桐之助氏

（過去の文献を転載。□は判読不明）



多摩川洪水・治水年表

1878 (明治 11) 年	六郷橋流出、羽田村ほか25カ村で水害
1894 (明治 27) 年	六郷多摩川堤防内で48戸床上浸水、作物被害
1907 (明治 40) 年	大洪水、各所で堤防決壊
1910 (明治 43) 年	多摩川下流部、大水害。六郷川堤防決壊
1913 (大正 2) 年	台風による増水で六郷、羽田堤防決壊
1918 (大正 7) 年	多摩川下流改修工事開始 (1933年に完成)
1923 (大正 12) 年	関東大震災により堤防亀裂、沈下陥没

災害時の様子

過去の災害の様子を伝えた東京日日新聞記事を転載（新多摩川誌による）します。総出で必死に対処している様子が生々しく描かれています。

明治43年8月12日付

（略）六郷川堤防決壊 附近は戦場の如し 記者身を以つて免る（略）五千余の土俵は要所々々に積み重ねらるる、危険なる箇所は六郷の左岸鉄橋の上約六七丁なる神奈川県橋樹郡御幸村字小向通称高島、更に上流数丁なる府下荏原郡六郷村字古川（東京市玉川砂利採掘事務所）並に十数丁上手なる矢口村字古市場、同會根分等なり、六郷村の消防夫全部の外蒲田より七十名、大森より三百名選抜して暴風豪風の中を防備作業に従事し警官は勿論町村吏員総出にして之を指揮す、消防旗は志とゞに濡れて風に翻り、砂利を運ぶ者土俵を作る者蓑笠の儘大槌を振って杭を打つ者総て必死の勢いは宛がら戦場の如し、一巡查の如き見るに見兼ねて自ら人夫消防隊と共に泥に塗れつゝ、働く様目覚しき限りなりき

水制工

今回の工事で埋め立てられた川岸にはいわゆる亀の甲と呼ばれる建築物がありました。これは、水制工という治水工法の一環でした。文化遺産と言つてよいこの建築物は、干潮時には亀の甲羅のような石組みを頭して親しまれていました。残念ながら撤去されることになり、その前に詳しい調査がなされました。

この水制工は前記多摩川下流改修工事のときに造られたものと推測されます。全部で4箇所、川の一番湾曲しているところに設けられ激しい水流の減速、川岸の保護を目的として作られたものです。ここに使われていた資材を用い記念碑的なものが作られると聞いています。取り壊される前には近隣の人を対象に見学会が催され大勢の人が参加しました。



見学風景

多摩川の水はどこから

山梨県塩山市笠取山（1953メートル）直下の水干（みずひ）の一滴が丹波川に入り、奥多摩湖にそそぎ、そこから多摩川となつて東京湾に注ぐ138キロ。昭和43年利根川より本格的取水が開始されるまで約30年、江戸東京の飲み水を一手に引き受けてきました。現在では源流水の8割が羽村市の小作羽村堰で、都民の飲料水として取水されて、河口まで流れてくる水はごくわずかとなっています。



旧六郷分室の問い合わせ先

旧蒲田保健福祉センター六郷分室で扱っていた業務と電話番号は変わっています。お間違いないようお願いいたします。

問合せ先 大田南地域行政センター
〒118-0001 東京都大田区南六郷3-1-23
電話 5713-11500
FAX 5713-11509

南三堤公園が開園しました

この公園は、下水道局雑色ポンプ所（南六郷3-23）上部に設置され、サイクリングする方も休憩できる施設となっています。この休憩所の建設には、宝くじの助成金が使われています。

「六郷わがまち」の編集委員長が代わりました

旧編集長 平野 順治

新編集長 中島 寿美

「地域を問い直す文化情報誌」として、平成4年11月1日発行創刊号から第35号まで、10年余にわたって編集委員長を務めさせていただきましたが、傘寿を迎えたのを機に退任することに致しました。長い間のご支援ご愛読に対し、衷心より感謝し御礼を申し上げます。毎号こまごまとした記事を盛り込むのではなく、時宜にかなった一つのテーマを取り上げてきた点に、是非はともかく特色があったのではないのでしょうか。



この度、平野委員長の後任を仰せつかりました。平成4年11月第1号が創刊され、地域を問い直す文化情報誌として、各町会1名計15名の編集委員のもとに出発致しましたが、早13年目を向かえようとしております。その間、平野委員長にはご自分の経験を十分に生かされ、私共編集委員を指導して下さいました。お蔭様で特色のある情報を地域の皆様に提供出来たことはご同慶に耐えませんが、今後も委員一同と共に読みやすい紙面づくりに又地域のあり方など身近な情報誌作りに専念して参る所存です。一層のご愛読をお願い申し上げます。